

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472700556	事業の開始年月日	平成17年12月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	株式会社 川崎中央プランナー		
事業所名	グループホーム 三浦こもれび		
所在地	(〒238-0115) 神奈川県三浦市初音町高円坊1452		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	9名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成31年3月5日	評価結果 市町村受理日	平成31年4月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様個々の尊重 ・利用者様1人1人に対し、きめ細やかなケアを提供できる。 ・家庭菜園を通して、四季折々の季節感を取り入れた生活。作る喜び、収穫する喜びを味わえる。 ・緑に囲まれ、自然豊かな環境。 ・居住空間が広く伸び伸びと暮らす事が出来る。 ・スタッフが皆とても親切。 ・掃除が行き届き衛生的。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成31年3月20日	評価機関 評価決定日	平成31年4月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇利用者家族と事業所間の信頼関係</p> <p>・毎月末、事業所から「こもれび通信」を郵送し、家族に利用者本人の日常生活を写真入りで報告している。家族にも好評で利用者と家族は、事業所や職員に信頼と安心感を寄せている。</p> <p>◇職員は、全員が有資格者であり、職員間のチームワークも良く情報を共有しており、支援方針も統一されている。利用者は、職員の関係の良さを日常の中で感じており、落ち着いた気持ちで支援を受けている。</p> <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇家庭菜園での利用者と職員の野菜作り</p> <p>・敷地内で季節ごとの野菜を、利用者職員が、苗付けから収穫までを一緒に行っている。収穫の喜びや雑草取りなど、日中部屋から出て活動的に過ごすことで、生活リハビリの一環にもなり、利用者の機能維持にも繋がっている。</p> <p>◇職員手作りの食事の提供</p> <p>・季節により家庭菜園で収穫した旬の野菜を、食事に使用している。職員は一汁三菜を基本に、そのつど、利用者の意見や要望を聞き、当日在庫の食品で献立を決めている。調理には、彩りと栄養面を考慮し提供している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム三浦こもれび
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出来ている。	・法人理念と、全職員が話し合い作成する事業所の年間目標を、玄関と事務所に掲示している。 ・その人らしさを大切にした介護を基に、職員は「利用者は家族と同じ」との気持ちを共有し、支援の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来ている。 町内会、民生委員との交流。 地元の餅つき大会見学等。	・町内会に入会し、回覧板が来ており、今年度は町内会の班長を務めている。地域の行事やお祭りには、利用者と参加している。 ・利用者と職員は、散歩コースにある農家で、野菜などを購入して地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ている。 RUN伴（マラソン）に参加。 散歩に出かけた際は、すれ違う人に挨拶をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来ている。	・会議への参加者は、利用者とその家族、市と地域包括支援センターの職員や民生委員などで、2か月ごとに開催している。 ・事業所の活動報告後、出席者から、入居者獲得への助言を貰い、また、参加者の意見で、地域の子供たちとの交流をを検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出来ている。 2カ月に一度の運営推進会議に行政、地域包括支援センターの職員が参加している。	・市担当者に、運営推進会議の出席依頼や会議録を郵送している。 ・管理者が、グループホーム連絡会に参加し、職員は利用者と、市主催の「認知症介護者・三浦の集い」や「地域包括支援センターで実施の認知症カフェ」に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来ている。	・事業所は「利用契約書」に、身体拘束排除の方針を明記し、家族に説明をし了解を得ている。 ・管理者は職員の不適切な対応には「イエローカード」を出し、何がいけなかったか考えさせ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・職員は研修を受けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出来ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない。 日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来ている。	・契約時家族に、第三者へ意見や苦情を表せる旨説明し、重要事項説明書に「外部苦情申立機関」を、明記している。 ・家族からバスの便が少なくバス停からも急な坂道で、訪問しにくいとの意見があり、送迎車の導入を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来ている。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は、毎月のスタッフ会議や日常の勤務の中で、職員から意見を聞いている。 ・職員から利用者の生活記録は月が変わっても、閲覧できる状態にして欲しいとの意見があり、前月分をそのまま残し閲覧可能にしている。 	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来ている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来ていない。 代表者は職員個人と面接する機会を設けているが、外部の研修については行っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	出来ていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ている。	<ul style="list-style-type: none"> 職員は、利用者の電話や手紙の取次をし、また、面会時にはお茶を出して、関係の継続を支援している。 本人との関係の把握に、新たな情報をたどきは、個人ファイルに追加記載し、職員間で共有している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来ている。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の思いや意向は、入居時のアセスメントや職員と1対1になる夜勤や入浴時、排泄時に本人から直接聞いて把握している。 ・把握が困難な利用者の場合は、表情や仕草から把握し、記録に残し職員間で情報を共有している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ていない。 月に1回のカンファレンス時に職員から色々な意見を聞き、介護計画に反映させているが、家族からの意見は聞いていない場合がある。	・介護計画は6か月を目標に、毎月のカンファレンスとモニタリングで各利用者の現状を見直している。 ・利用者家族の意見は、今後は面会時や電話で聞き取り、計画に反映して作成することを、職員間で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている。	・管理者は入居時に本人と家族に説明し、利用者全員が協力医と契約している。 ・協力医と歯科医は月2回、看護師と薬剤師が週1回来訪し、利用者の健康状態を把握して、職員と情報を共有し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来ている。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時、本人と家族に「重度化した場合の対応、及び看取りに関する指針」のを明し、「緊急時の対応及び終末期の意向確認・同意書」にサインをもらっている。 ・職員は、訪問看護師から対応方法などの説明を受けている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出来ていない。 避難訓練は行っているが、地域との協力体制は築いていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は、夜間想定1回を含み年2回実施している。事業所の裏手は斜面であり、土砂災害の際は、リビングの和室に避難するよう消防署から助言を得、利用者に周知した。 ・災害備蓄品として、飲料水、食料品など1週間分を備えている。リスト化はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄品の数量や賞味期限等を確実に管理するため、リスト化が望まれます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の権利擁護適正化のための指針を事務所に掲示している。 ・利用者への声掛けは、言葉遣い、声のトーンなどに留意している。 その方の方言は、利用者が喜ぶので使用することがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事は職員手づくりで、冷蔵庫にある食材で何を作るかを利用者に聞いて、3食の食事を提供している。庭の菜園で取れた野菜を、旬のおかずとしている。 ・ひな祭り、端午の節句などの日は、相応しい行事食を作っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来ている。	・約半数の利用者は、自分でトイレに行ける自立に近い方である。 ・職員は、利用者の排泄パターンを把握しており、時間や表情・仕草から早めにトイレへ誘導することで、失禁を防ぎ、パットの数を減らすことができた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来ている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来ていない。 施設の都合で入浴日、時間が決まっている。	・入浴は週2回、午前中に行っている。職員は洗髪、洗体の介助をし、湯船に入れない利用者には、浴槽内のお湯でかけ湯をしている。 ・職員との会話や歌などで、利用者はくつろいで入浴している。季節の菖蒲湯、柚子湯をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ている。		
49	18	○日常的な外出支援	出来ていない。 散歩、外出の機会を設けているが必ずしも本人の希望する場所ではない。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は、事業所周辺を30分程度の散歩している。手引きの利用者は車椅子を使っている。体調の優れない利用者は、テラスや庭で外気浴を楽しんでいるの。 ・全員の遠出は、河津桜の花見やソレの丘当で年4回は出かけている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ていない。 利用者様は金銭管理が出来ないため。仮払いによる買い物はしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングに炬燵のある和室があり、利用者の人気となっている。 ・清掃は時間を決めて、1日3回行って、清潔が保たれている。 ・利用者の手づくりの塗り絵、おひなさまや鬼の面などの手芸品を飾り家庭的な雰囲気を作っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室は、事業所が備えたエアコン、クローゼット以外は、利用者のなじみの家具、位牌、家族写真、マリアにロザリオ像等を置いている。 ・居室の整理・整頓は、可能な利用者と一緒に、職員が行っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム
三浦こもれば

作成日 平成31年3月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	現在外部の研修には参加していない。職員のケアの質を高めるためにも研修の参加が必要である。	半年に一回程度の間隔で外部の研修に参加する。	地域包括支援センターなどから情報を得る。研修に参加したものはレポートを作成し職員全員で共有する。	6 か月
2	35	現在の職員で防災訓練を行っていない。避難方法を把握していない職員がいる。	職員全員が避難方法を身に着ける事が出来る。	職員全員が避難訓練に参加し避難場所、避難方法を身に着ける。	3 カ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。